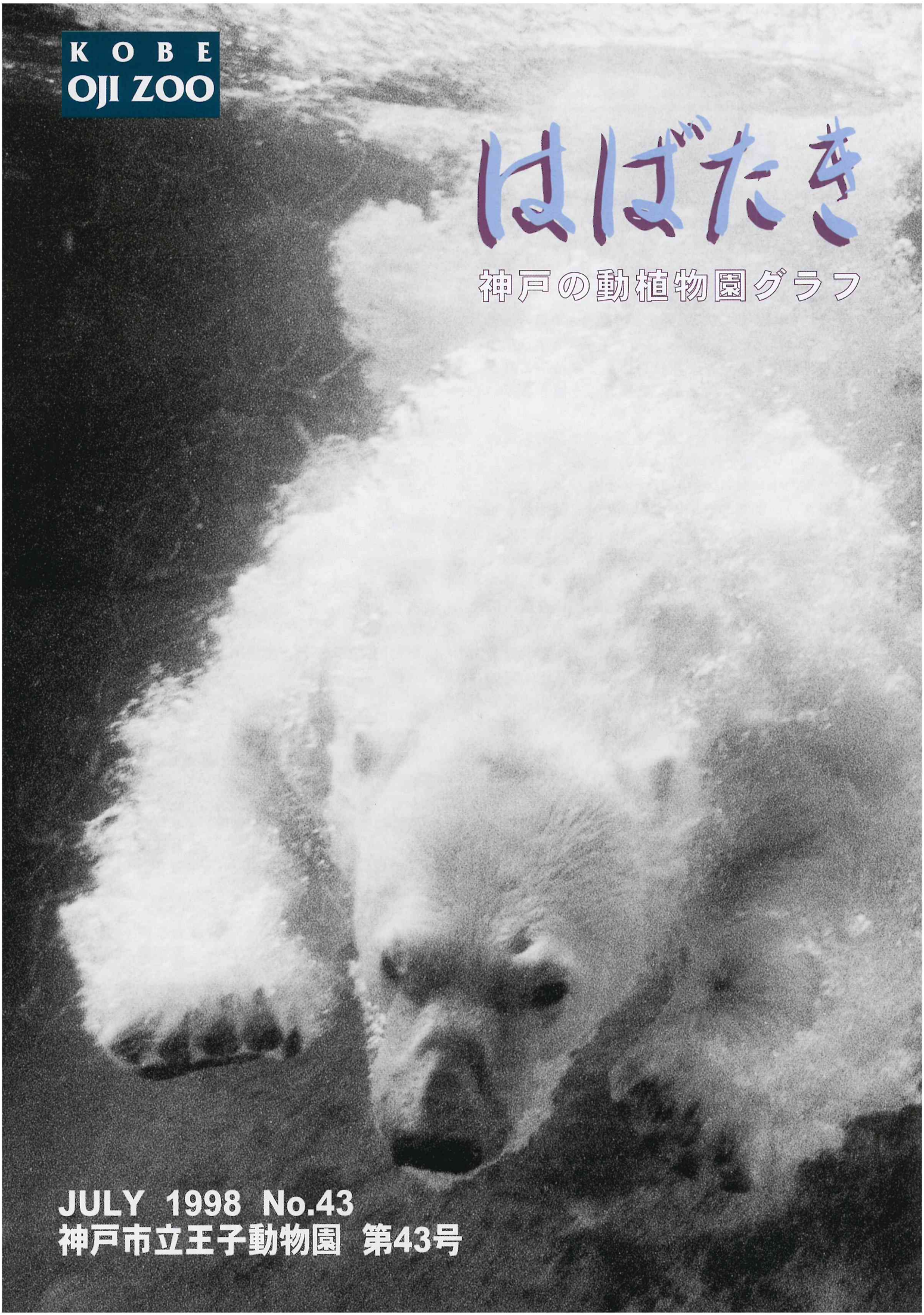
KOBE
OJI ZOO

はばたき

神戸の動植物園グラフ



JULY 1998 No.43
神戸市立王子動物園 第43号

はばたき

No.43 JULY 1998

はじめに

園長就任と29年ぶり「夜桜通り抜け」

この4月から前任権藤園長の後を拝命しました。動物園業務は昨年度、副園長として着任し、年間事業がようやく一巡して、何をいつするのかが理解できただけで未だに右往左往しています。

何分にも前園長は国の内外を含め動物園事情に精通された方であります。後塵を拝し汚す事なきよう動物のこと，動物園のこと，取り巻く背景など、これから学んで参ります。よろしくご指導ご支援をお願いいたします。

さて、王子動物園を含む王子公園一帯は桜の名所の一つであり、公園全体に約700本の桜があります。

動物園の中には約350本のソメイヨシノを主とした桜があり、開花の時期には大勢の方に動物とともに花見を楽しんでいただいています。昭和30年代後半から40年代前半には夜間開園していたようですが、桜の下での宴会が盛り上がり過ぎて動物への影響や安全管理上に支障が生じたため、昭和44年を最後にこの時期の夜間開園を取りやめた経緯があります。

今年の初めに職員から夜間開園の提案があり、職員および園内関係者と協議検討し、29年ぶりに実施しました。震災後の復興スローガンである「元気アップ神戸」そして4月5日開通の明石海峡大橋完成を祝う「ブリッジフェア神戸 '98」の関連事業に位置付け、4月2日から3日間夜桜の観覧に２時間開放いたしました。園内主要通路約500mの間をライトアップして、桜のトンネルを市民の皆様に楽しんでいただきました。

果してどれだけの方に入園いただけるか不安と期待が交差するなかでの臨時開園でしたが、予想を上回る大変多くの方にご来園いただき、そして最も心配していたトラブルも無く、まずは胸を撫でおろしたところであります。前々日から準備の夜間作業、そして開園の3日間、警備業務等不慣れな業務に従事した職員と園内関係者に深く感謝しながら「神戸の春の宵の風物」として定着できればと思っているところであります。

神戸市立王子動物園　園長　**大久保　建雄**

アシカ池と桜のライトアップ

目次 CONTENTS

表　紙
ホッキョクグマ　写真：山崎貞男
P1～2
巻頭言　はじめに　園長／大久保建雄
ホンドフクロウ　写真：勝原靖夫
P3～4
特集Ⅰ　クジャクの羽　文：鈴木　忠　写真：吉竹　渡
P5～6
特集Ⅱ　キリンたち明石海峡大橋を渡る　文と写真：兼光秀泰
P7～8
イベント1　夜桜通り抜け　文と写真：清見雅史
2　ゾウのしつけ参観　文と写真：石川康司
3　アシカの餌やり体験　文と写真：三角勝利
P9～10
カバ　写真：吉田　心
P11～12
飼育レポート　文と写真：大山裕二郎
ペンギン　写真：板倉さかえ
P13～14
動物の話題・ベビー誕生・ニューフェイス　飼育係各担当
P15～16
神戸の公園情報
須磨離宮公園・森林植物園
布引ハーブ園・花と緑のまち推進センター
P17～18
トピックス・動物園ニュース
動物科学資料館情報・特別展　文と写真：宍戸正芳
ＺＯＯっとタイムズNo.9　マンガ：川上博司
裏表紙
ホッキョクグマの足裏　文と写真：村田浩一
編集後記　副園長／森元賢典

表紙動物の説明

ホッキョクグマ

Polar Bear *Thalarctos maritimus*

北極海の氷域、大陸沿岸や島にすみ、繁殖期以外は単独生活する。

餌は、おもにアザラシで、イッカクやシロイルカを襲うこともある。動物園では、馬肉、トリガラ、サツマイモ（蒸）、リンゴ、パン、白菜、ペレットなどを与える。

王子動物園で飼育しているオスの「アイス」とメスの「ミユキ」はどちらも7才。赤ちゃんの誕生を待ち望んでいる。

●撮影者　山崎　貞男さん（西宮市）
平成9年度　アマチュア動物写真コンクール入選「ダイビング」

ホンドフクロウ Hondo Ural Owl
Strix uralensis hondoensis

日本各地の山林、森林、平地の林にすむ。夜行性で昼は木の上の葉陰で眠る。おもに夜間、ネズミ、モグラ、ウサギ、小鳥などを捕まえて食べる。

繁殖時にはなわばりをかまえる。2～4卵を2～5月に産み、メスが24～30日間抱卵する。

●撮影者　勝原　靖夫さん（神戸市兵庫区）　平成9年度　アマチュア動物写真コンクール　佳作「クワルテット」

特集Ⅰ クジャクの羽

現在地球上に生息している鳥類は8,000～9,000種と言われています。これらの鳥の羽は、メスはわりと地味な色の羽をもっていますが、オスは鮮やかな色をした羽、飾り羽、いろいろな形をした尾羽をもった鳥が数多くいます。これらの羽は求愛行動、縄張りの誇示など繁殖に深く関係があると言われています。

今回は、動物園の人気者、そして一番大きな飾り羽をもった美しいクジャクの羽についてお話ししましょう。

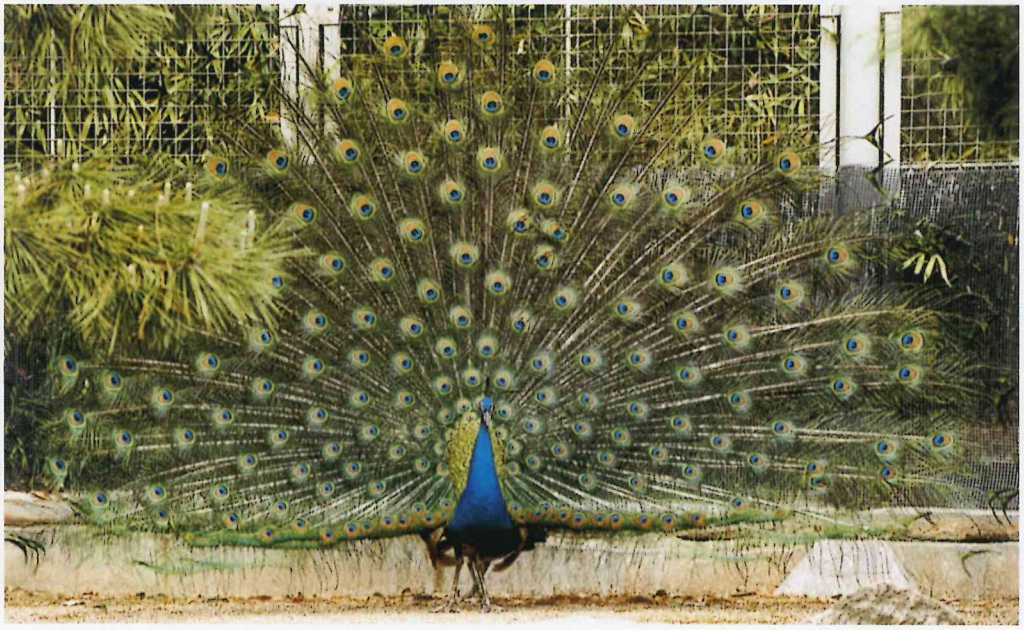
クジャクにはアジア南部に分布しているマクジャクとインドクジャクがいます。クジャクの羽を広げた優雅な姿をみて、皆さんの中には尾羽と思っている人がたくさんおられます。実は尾羽の上に生えている「上尾筒」と言う羽毛なのです。本当の尾はずっと短く「上尾筒」の後ろ側に支えるようにはえています。

上尾筒を支えるようになっている「尾羽」

あざやかな眼状羽

「上尾筒」は生まれてから3年ほどで生え揃い、4～6年令が鮮やかで羽に光沢があり、羽軸も太くしっかりしていて実に美しくなります。

この羽も1年に1回繁殖が終わる7月から9月にかけて抜け落ちます。10月頃から再び生えはじめ1月上旬までに生え揃い、飾り羽が完成します。



春3月上尾筒をいっぱいに広げた「オス」
この後羽をふるわせる

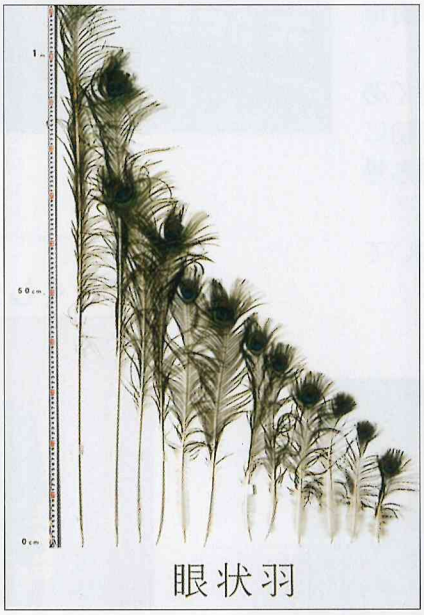
「上尾筒」の種類

眼状羽、半月羽、ホコ形羽とホコ形眼状羽があります。ホコ形眼状羽は希少価値の高い羽で数本しかありません。

「上尾筒」の長さ

昨年、抜けた「上尾筒」を計測したところ、眼状羽は短寸13cm～長寸119cm、半月羽は短寸120cm～長寸143cm、ホコ形羽は短寸32cm～長寸43cm、ホコ形眼状羽は短寸27cm～長寸49cmありました。

このように「上尾筒」は4種類の飾羽により形成されています。皆さん、この「上尾筒」は全部で何本あると思いますか？
以前に東京の上野動物園飼育課でマクジャクで調査した資料を見たことがありました。
なんと、236本あったそうです。



メスに向かってディスプレーをしているオス

羽を広げている時間は？

園内を巡回していると「クジャクは羽をいつごろ開くのですか……」と、よくお客様から尋ねられます。私が観察したところでは春3月、それも、春一番が吹く前後のどんよりくもった日です。「上尾筒」も太陽光線が当たらないほうが輝いて実に美しく見えます。この時期開く回数も多く、羽を広げる時間は数10秒から長くて6分でした。広げた羽をじっと見つめていると、金粉をふりかけた眼状羽、半月羽は外則を飾る羽、ホコ形羽は扇面の下側を飾る羽、その羽はきっちりと整い、美しさを醸しだし、不思議さを感じます。

このような優雅で美しい羽も夏には抜け落ちてしまい、その姿を見たときは一抹の淋しさを感じます。脱落した美しい「上尾筒」を何とか再利用できないものかと装飾用として部屋に飾っていますが、1年を過ぎると眼状羽が色あせて先端部から取れて落ちてゆきます。この「上尾筒」を長く保存できないものか研究中です。皆さんよい方法があれば教えてください。

特集Ⅱ キリンのマサ、明石海峡大

とくしま動物園開園へのプレゼント

●はじめに

昨年のことですが、王子動物園から四国のとくしま動物園へ、キリン、ユキヒョウ、フラミンゴとホシガメを送ることになりました。

これまで、四国へは海上輸送に頼っていましたが、明石海峡大橋が1998年4月5日に開通するので、この翌日の6日に大橋開通のイベント（ブリッジフェア神戸 '98）の一環としてキリンたちを陸路で輸送することに決定しました。この輸送には低公害車（エコカー）を使用しました。

このうちホシガメについては、小型であること、輸送時間の短縮を考慮し、事前にとくしま動物園の飼育職員によって持ち帰られました。

それではキリンのマサの旅立ちについてお話ししましょう。

霧の明石海峡大橋を走行

左から大久保園長、とくしま動物園 本田園長、安藤建設局長

輸送箱とマサ

●輸送準備

輸送に先立ち、とくしま動物園から２名の飼育職員が４日間研修に来られました。その後３月11日にマサの輸送箱がとくしま動物園から送られてきました。大橋開通のイベントということもあり、輸送箱には約2週間かけて絵の上手な飼育係員がキリンの絵を描きました。

マサは雄で1997年6月に当園で生まれました。大変おとなしく、担当者にもよく馴れていて、毎朝体を触るのが日課となっていました。しかし、いくらおとなしいといっても背の高さが3.1m、体重約200kgの巨体です。そう簡単に輸送箱に入れることはできません。また、無理矢理閉じ込めて、怪我をしたら大変です。

そこで、輸送箱に馴れてもらうために、輸送の2週間前からマサの寝室の入り口に輸送箱を設置して、この中で餌をあげるようにしました。私達の心配をよそに、1時間後には恐る恐るとではありますが輸送箱に入り餌を食べていました。2～3日もたつと、まったく輸送箱を恐れなくなりました。

輸送箱に出入りするマサ

橋を渡る

●輸送当日

この日は、午前8時からマサを輸送箱に入れる作業を開始しました。

まず、餌で輸送箱に誘い寄せ、寝室の扉を閉め、それから輸送箱の扉を閉めるという段取りで行ないました。これまでの経験では、そう簡単に輸送箱に閉じ込めることはできなかったのですが、マサは非常におとなしく、輸送箱に収容することができました。

また、ふつう輸送箱に入っても暴れるのですが、マサは落ち着いていて、いい子にしていました。マサのおかげで当初の予定より非常に早く、午前9時にはトラックに積み終えていました。

余談ですが、この日は朝から雨が降り続いており、カッパを着るとキリンが怖がるので、作業終了時には全員下着までびしょ濡れになっていました。中には、風邪で熱を出しながらも「マサが心配で休まれへんわ」といいながら作業した飼育職員もいました。ちなみに、この職員はマサを出し終えてから帰宅し、3日間高熱でうなされました。

いざ出発。みんなで記念撮影

とくしま動物園での収容作業

●徳島へ出発

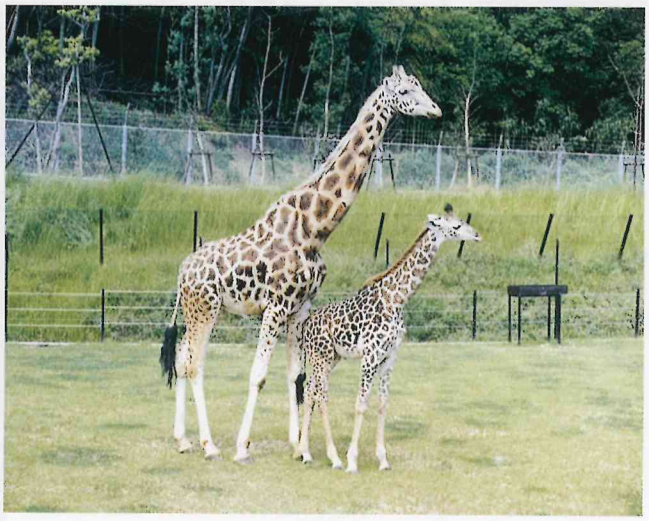
当園でマサたちの出発式が行われ、午前11時にとくしま動物園へ向け出発しました。輸送ルートは、マサたちのことを考えて、できるだけ早く輸送するために有料道路を主体としました。当初は、マサたちのことを考え50km/h以下で走りましたが、マサも落ち着いていたのと、午後3時からとくしま動物園で歓迎式典が行われるので、これに間に合うように70km/hまでスピードを上げました。

明石海峡大橋にさしかかると、雨のうえに霧が出はじめました。それでも無事に橋を渡り終え、それからは、徳島に近づくにしたがい天気も回復し始め、午後3時ちょうど、とくしま動物園に到着しました。

すぐに記念式典が行われ、その後、マサたちを各寝室へ収容したのを確認し、帰神しました。

●マサに会いに

あれから1ヶ月後の5月9日、マサに会いにとくしま動物園に行って来ました。とくしま動物園は、郊外へ移転し本年4月29日に新たにオープンしました。広々とした大変きれいな動物園です。マサは、以前からとくしま動物園で飼育されていた雄キリンの太郎とシマウマ、オリックス、ダチョウなどと一緒に広い芝生の運動場で元気にしていました。とくしま動物園の高橋主任に聞いたところ、マサは太郎と仲が良く、片時も離れず太郎と一緒に暮らしているとのことでした。これで安心して神戸に帰ることができました。



5月9日、マサに会いに
（小さい方がマサ）

特集 Ⅲ 動物園のイベント

29年ぶりの「夜桜通り抜け」

明石海峡大橋の完成、震災復興への願いを込めて。

4月2日・3日・4日の3日間「夜桜通り抜け」を開催しました。

春、王子公園は約700本のソメイヨシノが咲き誇ります。動物園内にも多くの桜があり、「桜のトンネル」を作ります。しかし、昭和44年に飲酒者による動物たちへのいたずらなどの理由から夜間開園を中止していました。

この度、明石海峡大橋の完成を祝う「ブリッジフェア神戸 '98」の関連事業として、また、「元気アップ神戸」による復興を願って、29年ぶりに再開したものです。

当園の桜を180個の照明灯でライトアップすると桜のトンネルが夜空に浮かびあがりました。

3日間で約2万3千人が来園され、特別観覧通路約500mを30分かけて歩き、夜桜を楽しんでいただきました。

ぼんぼりの明かりに映える遊園地

夜桜と旧ハンター住宅

ライトアップされた桜のトンネルの下を散策

●ゾウのしつけ参観

毎週土曜、日曜と祝日の午後2時頃にお客さんに説明を聞いていただきながら運動場でインドゾウのズゼにしつけをしています。しつけ自体は毎日していることで、けっして芸をお客さんに見てもらうためでなく、ゾウと飼育職員の両方の安全を図りながら飼育していくために必要なことなのです。それでもせっかく集まってくださったお客さんのために少しでも楽しんでもらおうとがんばっているところもあります。

ゾウのしつけはタイでは3才くらいから始まりますが、ズゼは6才までしつけをされたことがなく、王子動物園に来園して8ヶ月くらいして落ちついてから本格的にしつけを始めました。

いつもは大胆なズゼですが、号令に従わず怒られると怖がりすぎてしまうところがあります。しつけがきちんとできたときは餌を与え、体に触れほめますが、できないときは本気で怒り叩くこともあります。決してズゼをいじめているわけではありません。しつけをすることにより台の上に足を上げさせて爪の手入れをしたり、頭を下げさせて耳から採血をすることができるようになります。

ズゼちゃんの足のお手入れ

ゾウの調教を解説する鈴木総括班長

●アシカの餌やり体験

土曜、日曜と祝日の午後1時過ぎより、入園者の方々に、アシカに餌を与えるイベントに参加していただいています。餌のやり方については、飼育係員からの説明があります。まず、けがをしないように魚の尾を持つこと、プールの水の中に入れること、魚を触ったら手は必ず洗うこと、そして、餌やりの手本を見ていただき、餌やり開始です。約10kgのアジを用意しています。オスのチュータ、メスのテルコ、シズカの紹介やアシカの生態について話しているうちに、アジはすべてアシカの胃袋のなかです。この間10分ほどです。

カリフォルニアアシカはオス1頭メス15頭ぐらいで集団をつくりますが、動物園では、オス1頭メス2〜3頭の飼育が限度です。毎年5月下旬〜6月上旬頃になると、アシカのベビーが1〜2頭増え、餌のやりがいも増すかもしれません。この人気のあるイベントを動物たちへの接し方や生態への興味につなげていきたいと思います。

アシカに関する
楽しいお話をする
大山飼育職員

餌をもらうチュータ君

カバ Hippopotamus *Hippopotamus amphibius*

アフリカの中央部、西部、東部の沼、川、湖、草原にすむ。野生では水辺の草を食べる。動物園では青草、干し草、キャベツ、ニンジンなどを与える。

ずんぐりした胴体、大きな頭は水中の生活に適している。目、耳、鼻は上方に付いており、写真はよく見ることのできるポーズで、この後、5分間にもわたり潜水していることがある。
あごは150度まで開くことができ、口を開いたときのポーズは圧巻です。

●撮影者　吉田　心さん（神戸市中央区）　平成9年度　アマチュア動物写真コンクール　特別賞「ガバァ～！」

飼育 Keep レポート

ペンギンの飼育・

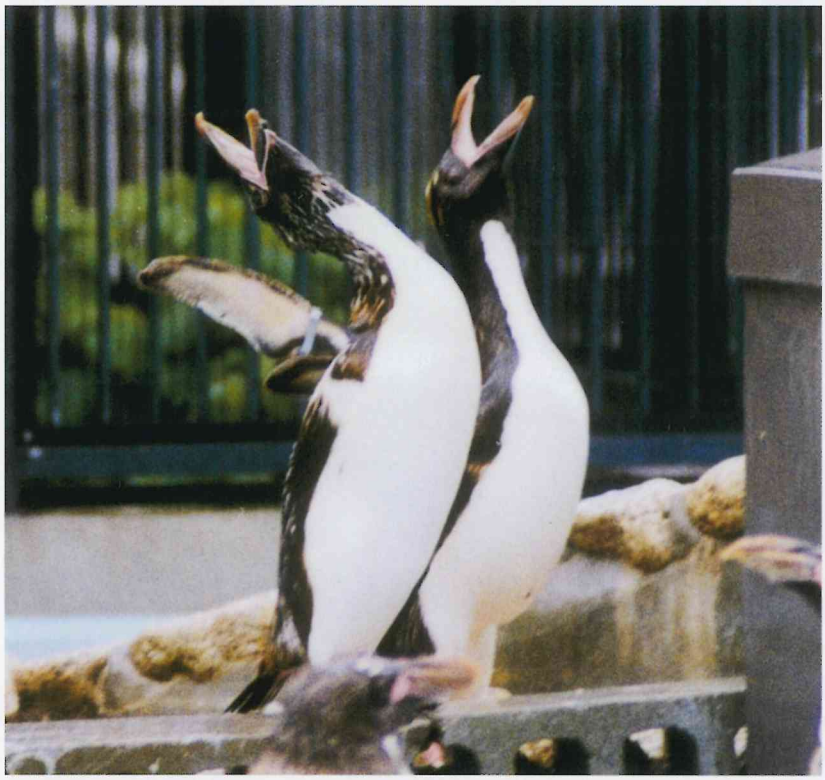
●飼育あれこれ

王子動物園では1961年（昭和36年）からペンギンの飼育を始めています。当初、飼育していたのは皆さんがよく知っているフンボルトペンギンではなく、オウサマペンギンの子どもとよく間違えられるマカロニペンギンなのです。

初めの頃はペンギンに関する資料が少なく、また日本の高温多湿の気候に耐えられなくて短命に終わった個体もいました。しかし、先輩飼育職員の努力のおかげでペンギンの生存率も高まり、今では日本で5指に入るほどの長寿のペンギンがいるまでになりました。

王子動物園のペンギン飼育は一時期5種類30羽以上いました。しかし、野生のペンギンの生息数の減少や、生息環境の悪化を憂慮した全世界の動物園・水族館や種の保存委員会のペンギン調整者からの要請で、日本全国の動物園・水族館で飼育するペンギンの種類と羽数を調整して、保護育成に力を入れることになりました。その結果、現在王子動物園では3種（オウサマペンギン、マカロニペンギン、フンボルトペンギン）を飼育することになり、合計26羽を飼育しています。

水中で餌をたべるフンボルトペンギン



ディスプレーをしているマカロニペンギンの夫婦

●繁殖の向上

王子動物園で飼育する3種のペンギンのうちフンボルトペンギンは毎年子どもに恵まれています。

しかし、人間の社会でも問題になっている高齢化が動物園の動物にも起こっています。

王子動物園のペンギンの中には・今年の6月20日の誕生日を迎えると、満26歳になる長寿個体がいます。長生きしてくれるのは飼育係にとって嬉しいことなのですが、飼育スペースに限りがあるため、仕方なく新しく生まれてきたペンギン（2〜3歳になる個体）を他の動物園、水族館に貸出したりして、飼育数を調整してきました。そのため現在では高齢な個体と繁殖経験不足の個体しかいなくなっています。

高齢の個体と若い個体でペアを組めばいいと思われるでしょうが、ペンギンは一度夫婦になると相手が死ぬか、特別な場合をのぞいて、ずっと相手を替えずに過ごします。

経過・繁殖

フンボルトペンギンとひな

仲のよいペアを見ていると、心温まるものがありますが高齢になれば卵の孵化率が減少します。また、若い個体は上手にペアの相手を見つけられないためにうろうろしていることが多いのです。それが原因で、この2〜3年は毎年1羽ずつしか繁殖しません。

王子動物園ではこのような問題を解消するため、繁殖技術の向上はもとより、全国の動物園・水族館に協力してもらい、ペンギンの交換や借り受けなどを行い、より一層の繁殖の向上に努めています。

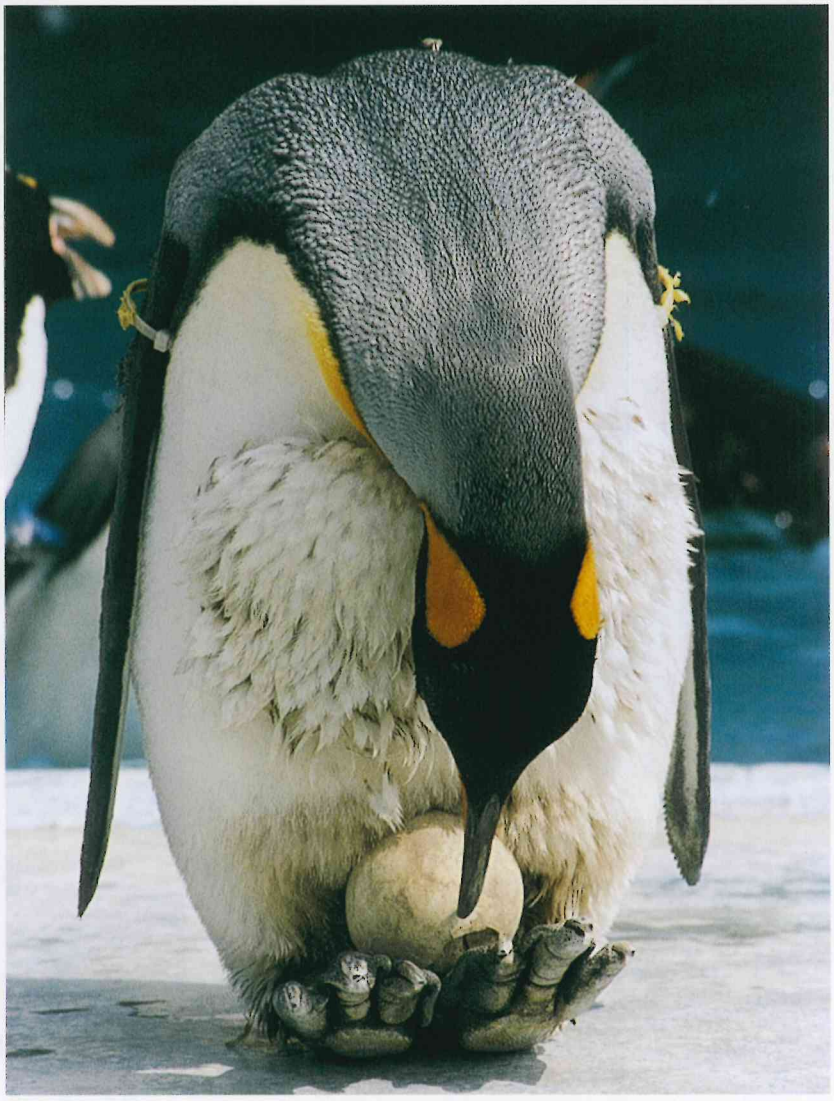
●明日への展望

最初にもお話ししましたが、野生でのペンギン生息数は急速に減少しています。人間がペンギンの生息地を開発したり、人間が持ち込んだ猫やネズミなどがひなや卵を食べてしまうからです。また、漁船などがペンギンの餌になる魚介類を乱獲するため、常にペンギンの餌不足が続いています。そのため、動物園・水族館におけるペンギンの保護と繁殖に期待が高まっています。

とくに皆さんになじみ深く、動物園・水族館で数多く飼育されているフンボルトペンギンは日本での飼育下繁殖の成功が望まれています。王子動物園でも、その期待に応えるためフンボルトペンギンの繁殖技術の向上に努めたいと思っています。

もちろんオウサマペンギンやマカロニペンギンの繁殖にも全力をあげて取り組むつもりです。

皆さんも応援してくださいね。



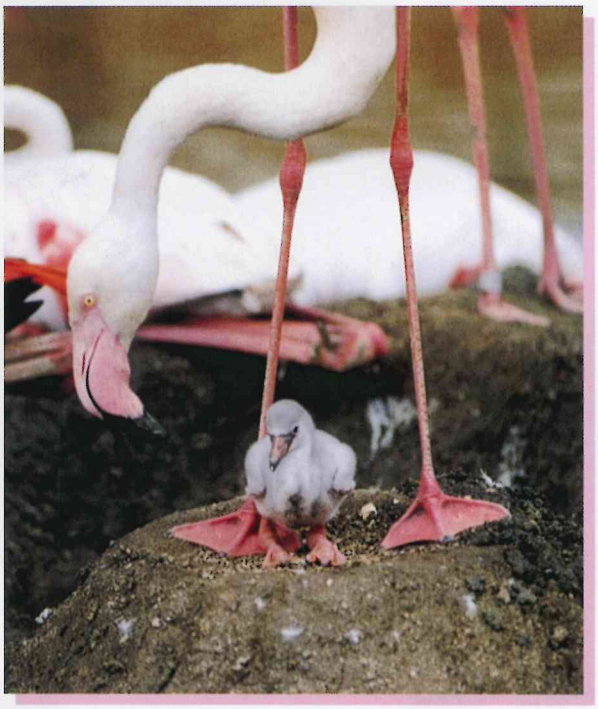
卵をあたためているオウサマペンギン。ポウチと呼ばれる下腹部の袋に卵を入れる

●撮影者　板倉 さかえさん
平成8年度　アマチュア動物写真コンクール　入選作品

動物の話題　ベビー誕生・新顔

●カリフォルニアアシカ　Californian Sea Lion
Zalophus californianus

6月8日にテルコの子が、6月11日にシズカの子が生まれました。生まれたばかりのアシカの子どもは泳げないので、陸の上でひたすら眠るかお母さんからお乳をもらっていました。今では泳ぎの名人の仲間入りをしています。

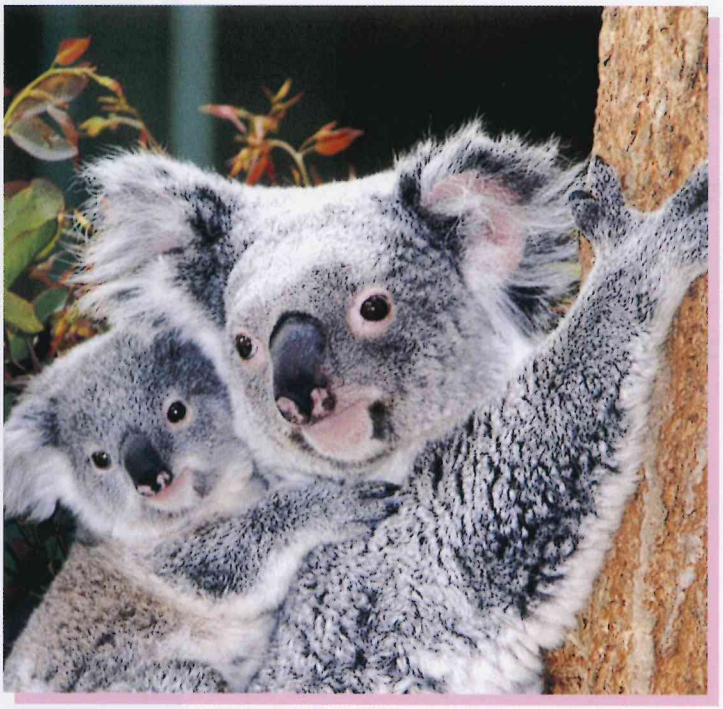


●ヨーロッパフラミンゴ　European Greater Flamingo
Phoenicopterus ruber roseus

昨年はベニイロフラミンゴと合せて16羽がふ化しましたが、今年はその記録を越える23羽のヒナが誕生しました。母親は赤い色をした分泌物（フラミンゴミルク）を口移しでヒナに与えます。その甲斐あって10ヶ月もしないうちに親と同じぐらいの大きさに成長します。

●パルマワラビー　Parma Wallaby
Macropus parma

今年の4月5日にお母さんの袋から初めて顔を出しました。撮影した当時は、メス親の袋から顔と手を出して外の様子をうかがっていました。



●クイーンズランドコアラ　Queensland Koala
Phascolarctos cinereus adustus

昨年12月17日にお母さんの袋から初めて顔を出しました。父も母もオーストラリア生まれですから、在日二世ですね。名前は母親「マディー」の頭文字のMから「マリア」と名づけました。

動 物

●エミュー　Emu
Dromaius novaehollandiae

今年の2月1日から抱卵し、3月26日にふ化しました。撮影した当時は大きな両親の足元をうろうろしながら餌をついばんでいましたが、今ではふれあい広場で元気に走り回っています。

●ヒョウモンガメ　Leopard Tortoise
Geochelone pardalis

昨年9月27日に産卵し、今年の1月26日にふ化しました。当園では5個体の親ガメを飼育してきましたが、うまく産卵することができませんでした。そこで繁殖場を作り、オス1、メス2頭を繁殖用に飼育しました。その結果産卵し、卵を人工ふ化したところ120日でふ化しました。

ヒョウモンガメはその名のとおりネコ科のヒョウの模様の甲羅を持つ種で、ワシントン条約付属書IIに該当する動物です。

※この他にも

ベニイロフラミンゴ、シタツンガ、ガチョウ、カモ、オシドリ、フンボルトペンギンなどのベビーも誕生しています。

新 顔 動 物

●シンリンオオカミ　Eastern Timber Wolf
Canis lupus lycaon

5月28日仲間入りしました。昨年の5月5日にカナダの動物園で生まれました。野生ではアラスカ、カナダの森林地帯に“パック”と呼ばれる10頭位の群れを作り、シカの仲間やノウサギ、ビーバーなどを食べます。名前は「クイーン」と命名しました。

●オオヤマネコ　Eurasian Lynx
Lynx lynx

昨年12月10日に姫路市立動物園から2頭がペアで仲間入りしました。

新中型猛獣舎でご覧になれます。

神戸市立 須磨離宮公園

夜の噴水庭園

ジャンボ松竹梅の展示

離宮公園で自然に帰ろう

何もかもが、まばゆいばかりの夏、静寂が心にしみる秋、そして来るべき新春に備えて新たな気持ちにさせてくれる自然の装い。

このように須磨離宮公園では、船の行き交う瀬戸内海が望める素晴らしい景色と季節の装いとのハーモニーを心ゆくまで味わっていただけます。

■エンジョイナイター

夏休み期間中は午後9時まで開園。

＊ミュージックナイト：7月下旬～8月上旬の土曜日の夜（延べ3日間）は音楽を中心としたイベントを開催（噴水広場）。

＊アニメナイト　　：8月中旬～8月下旬の土曜日の夜（延べ3日間）はアニメ映画を上映（おべんとう広場）。

■第15回神戸須磨離宮公園現代彫刻展　　10月1日～11月23日

当公園で西暦遇数年に開催される恒例のイベント（噴水広場）。

今回は「新世紀への礎」をテーマに12点が出品される。

■第11回「離宮　月見の宴」　　10月5日（月）

中秋の名月を観賞する恒例のイベント（噴水広場・中門付近）。

風流な琴の調べと、野点、月見酒等をお楽しみ下さい。

■秋の盆栽展　　10月下旬～11月上旬

松柏、雑木、草物などの盆栽を大小合わせて約40点と水石の展示（和室）。

■第25回秋の洋らん展　　11月中旬～11月下旬

愛好者の作品約250点が展示され、優秀作品約30点が表彰される（観賞温室）。

相談と即売コーナーのほか、初心者向けの講習会も予定（和室）。

■ジャンボ松竹梅の展示　　12月初旬～1月中旬

恒例の迎春行事として、松竹梅の寄せ植えに飾り付けをして展示（中門広場）。

※休園日　毎週「木曜日」（ただし祝祭日の場合はその翌日）

お問い合わせ　〒654-0018　神戸市須磨区東須磨1-1　☎078-732-6688

神戸市立 森林植物園

暑い、暑い夏です。涼を求めて多くの人々が水辺に出かける季節です。

森林植物園では、涼風に吹かれながらのんびりと木陰に憩う人々の姿がみられます。大都市であるにもかかわらずクワガタムシやカブトムシを求めて裏山をさまよう子どもたちの姿がみられるのも神戸ならではの夏休み風景でしょう。そんな元気印の子どもたちに自然と友達になってもらおうと森林植物園では夏休みのプログラムを用意しています。三ノ宮からの市バスのほかに4月から北鈴蘭台駅から送迎バスを通年運行しており、ご来園が便利になりました。

立秋をすぎると暦通りそこここに秋の気配が漂い始めます。秋の七草が咲き始めるのはまだうだるような残暑の8月半ばです。

9月を迎えると暮れなずむ園内で秋の虫の音色を鑑賞する『鳴く虫を聞く夕べ』を催します。10月には恒例のドングリゴマ大会、月末からは『もみじ散策』を開催します。緑の映え錦織りなす紅葉に包まれて箏曲や野点の風雅をお楽しみ下さい。

落ち葉が木枯らしに舞う季節になるとバード・ウォッチングを楽しむ人々が目立ち始めます。園内の管理作業から得られる木の実やツルなど森からの贈り物を素材にしたリースづくりの催しもこの季節の楽しみのひとつです。

※休園日　毎週「水曜日」休園（ただしイベント期間中は休園しません。）

4月から神戸電鉄北鈴蘭台から来園者送迎バスを運行

お問い合わせ　〒651-1102　神戸市北区山田町上谷上字長尾1-2

☎078-591-0253

四季折々に自然と友達になろう

夏のジャングルジムで遊ぼう

紅葉のトンネル

アウトドアしませんか

神戸市立 布引ハーブ園

香りと花につつまれて、ハーブ園で楽しもう

今回は布引ハーブ園でのこれからのシーズンのイベント、見所などをご紹介いたします。

夏

夏はピリッとスパイスのきいた料理が食べたくなる季節ですね。夏にはレモングラスやバジルやオレガノ等、スパイスの原料となる熱帯産のハーブが元気です。ハーブ園では、8/1～8/31日までスパイス展を行います。期間中はコンサート、スパイスを使っての染色や料理の教室、スパイスの調合等の当日参加教室、展示会等が開かれます。

秋

芸術の秋…だけど何をしたらいいかわからない。そんな皆さんはぜひ10月中旬～11月下旬のハーブ芸術まつりに参加してください。フラワーアレジメント、ポプリ、染色、香道などの教室のほか手作りアートの当日参加教室など芸術に親しむためのきっかけ作りとなる教室を多数ご用意しております。またこの時期はメキシカンブッシュセイジやパイナップルセイジやラベンダーセイジ等秋のハーブが美しい時期です。

冬

クリスマスが近づくと、華やかなクリスマスの装飾とともにハーブ園は、ロマンティックなムードに包まれます。12月中旬～下旬にはクリスマスイベントとして、コンサート、料理教室が開催されます。また2月にはバレンタインイベントが開催されます。
カップルで、お友達で、ぜひ参加してみてはいかがですか。

詳細は月初めの広報こうべでお知らせします。ぜひお越しください。

＊休園日　第2、第4「月曜日」（ただし祝祭日の場合はその翌日）
お問い合わせ　〒651-0058　神戸市中央区葺合町字山郡
☎078-271-1131

パイナップルセイジ

クラフト教室

神戸市立 花と緑のまち推進センター

暮らしに花と緑を

総合花壇（平成9年度総理大臣賞）

●第47回神戸菊花展のご案内

と　き：平成10年10月20日（火）から11月24日（火）まで
ところ：相楽園
主　催：神戸市・神戸菊花協会
（財）神戸市公園緑化協会
出品数：約3,000鉢
その他：協賛催しとして「秋の植木市」を開催
（10月20日～11月10日）

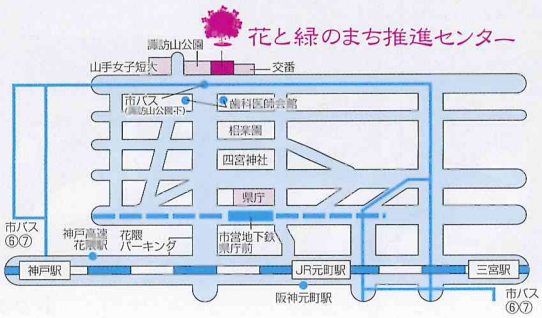
●展示の種類

総合花壇、大菊花壇、管物花壇、だるま花壇、大菊福助作り花壇、盆栽花壇、盆景花壇、小品花壇、草物花壇、鉢植え風致花壇、衝立風致花壇、木添え作り、学校花壇、一鉢出品、千輪菊花壇、特別意匠花壇、古典菊花壇、造園花壇、野外花壇、庭園の一部を取り入れた借景花壇等の花壇展示のほか一般市民からの自由な作品を「市民花壇」として展示。その他に大菊切花展示、大菊の育成写真展示等も行っています。

※お問い合わせ　〒650-0006
神戸市中央区諏訪山町2-8（諏訪山公園内）
☎078-351-6756
園芸相談専用　☎078-341-8705

四季折々の花の情報や施設紹介は

ホームページアドレス　http://wwwkobe-park.or.jp/
花のテレフォンサービス　078-371-8711



話題 TOPICS トピックス

「キンシコウの里帰り」
（平成10年4月28日）

昨年の勇勇（ユウユウ）に続き二度目

4月22日から28日の７日間、中国から3名の金絲猴技術団の方が来園されました。

里帰りした鈴鈴

左から安藤建設局長、陳潤生　中国野生動物保護協会 常務副秘書長、談玉亭　北京瀕危動物馴養繁殖中心 副主任、李占東　天津市園林管理局局長

平成8年3月24日に当園で生まれたメスの鈴鈴（リンリン）が2歳を過ぎたので、中国へ引き取るために来られました。

ユウユウのときも同じでしたが、可愛い盛りのリンリンとお別れするのは大変残念なことです。でも、希少動物のキンシコウの繁殖を進めるためには必要なことです。

彼女の子どもか孫が当園に戻ってきて、その次の世代へと何世代にもわたり飼育できることを夢見て「金絲猴里帰り」の式典を行いました。（4月27日）

安藤建設局長（左）と陳潤生さん

「わかるかな？　動物たちの鳴き声」

新しい企画として、動物に関する教育支援事業「わかるかな？動物たちの鳴き声」の開催を始めました。小学校低学年が対象です。

内容は、ビデオの上映、動物のお話、飼育係の仕事、シーズンのトピックス（動物園行事予定）、赤ちゃん誕生、動物何でも相談など子どもたちにわかりやすく説明します。

レクチャー

「ヒツジの毛刈り」
ひと足早く衣替え

ヒツジの毛刈り

衣替えの季節を控えた5月10日（日）、ヒツジの毛刈りを行いました。毛を伸ばしたままだと体温調節がうまくできないため、毎年この時期に実施する恒例の行事です。

「ふれあい広場」の牧柵内で、職員が数人がかりでヒツジを押さえながら、サフォーク種のメス3頭の毛をバリカンで約1時間かけてさっぱり刈り取りました。

さわやかな風が吹くなかを家族連れやカップルら約300人が興味深く見守っていました。

刈り取った羊毛約7.5kgは、希望するお客様に分けてさしあげました。

特別展ご案内

特別展　諏訪子が語る「王子動物園の歩み」

平成10年3月21日（土）～6月30日（火）

開園満50周年を3年後にひかえ、その事前的催しとして諏訪山に始まる神戸の動物園のあゆみを、当園のインドゾウ"諏訪子"の視線から紹介しました。当時の新聞記事のコピーや、写真パネル、かつて人気者だった動物のはく製等を展示し、来場者の好評を得ました。また、展示室内に設置した「思い出ノート」には、来場者の王子動物園にまつわる様々な心あたたまるエピソードを寄せていただきました。

特別展「六甲山系の自然と生き物たち」～身近な自然の再発見～

平成10年7月18日（土）～9月29日（火）

瀬戸内海国立公園内の六甲山は、神戸の中心に位置し、一般にレクリエーション地として親しまれていますが、その豊かな自然に関しては意外と知られていません。そこで今回の特別展では、来場者に身近な自然の再発見をしていただけるよう、なにげなく見落としがちな生き物たちを紹介していきます。

「大人のための動物園講座」

王子動物園を194倍楽しむ方法

新しい企画として、動物に関する広報事業「大人のための動物園講座」を開催しました。
15歳以上の人が対象です。

内容は、最近の動物園の動向、飼育係の裏話、動物園獣医師の仕事（動物治療の裏わざ）、Q＆Aと5班に分かれてのバックヤード・飼育調理室・動物病院の見学などです。16才から79才の90人の方の参加がありました。次回は平成11年2月に開催いたしますのでふるってご参加願います。

ZOOっとタイムズ No.9

まんが：かわかみひろし

ホッキョクグマの足裏

毛は、鼻先と足裏の肉球を除く全身に生えている。写真は足の裏。氷の上での保温と滑り止めの役割を果たしている。(縮尺1／4)

編集後記

今年から、社会教育施設としての役割を充実させるために、毎週火曜日と木曜日の午前10時と11時に予約制で、動物園に遠足にこられた小学生を対象に視聴覚教室を開き、楽しみながら動物の知識と愛護精神を同時に学んでいただく試みをスタートしました。

サマースクールも好評で今年も開催しますので、動物の飼育（餌作り、餌やり、獣舎の清掃、動物の観察）を通じて新たな発見をしてください。

平成10年度は、動物園職員一丸となって、より愛される動物園となるために、大型猛獣舎の建て替え、開催行事のバージョンアップなど魅力ある動物園となるよう努めてまいります。是非ご家族・ご友人お揃いでおいでください。

また『はばたき』No.43をお届けしましたが、読んだ感想など、ご意見をお寄せいただけましたら幸いです。

はばたき　43号
1998年7月20日発行
企画・監修　神戸市立王子動物園
☎078-861-5624
編集・発行　㈶神戸市公園緑化協会
動物園事業部
☎078-801-5711
〒657-0838
神戸市灘区王子町3-1
デザイン　㈱グラフィカ
印　　刷　日本写真印刷㈱